

史跡造山古墳第五古墳石障損傷発見から現在までの経緯

資料 1

平成21年9月29日：岡山大学考古学研究室による石室内部測量準備、水抜き開始

10月 1日：石室内に堆積したヘドロの除去作業

10月 5日：岡山大学新納氏から直弧文の下半分が剥落しているとの連絡が入る。岡山県・岡山市立ち会い。文化庁に概要を報告。

(石室内の水を排水し、離水状態を保ち、経過観察をおこなう)

10月14日：高妻洋成氏（奈良文化財研究所）来岡し、現地調査。

10月15日：文化庁に経緯・現況等を報告に行く。

11月11日：文化庁（三宅調査官・建石調査官）現地視察。

12月18日：鈴木茂之氏（岡山大学理学部）が現地で石室石材の同定を試みる

平成22年2月12日：宇田川滋正氏（文化庁古墳壁画室）石崎武志氏（東京文化財研究所）、高妻洋成氏（奈良文化財研究所）、脇谷草一郎氏（奈良文化財研究所）、来岡し、水質、石材等の現地調査。

3月29日～31日：金田明大氏（奈良文化財研究所）が来岡し、電探調査をおこなう。羨道部がほとんどないことと、石室の掘り方も顕著でない可能性が高いことを指摘。

5月16日：入り口左壁部にかび確認。エチルアルコールを噴霧。

入り口部付近の乾燥している部分ではかびが認められる。

6月24日：奈良文化財研究所で、高妻洋成氏、脇谷草一郎氏、金田明大氏と石障の保存・保護及び電探調査の成果について協議

7月12日：文化庁で千足古墳の保護・保存について協議

7月13日：文化庁の建石調査官、奈良文化財研究所の高妻洋成氏、脇谷草一郎氏が来岡し、現状調査と保護・保存に関し協議

7月20日：平成22年度第1回史跡造山古墳第五古墳保存整備委員会開催

8月16日：文化庁で千足古墳の保護・保存について協議

8月12日：奈良文化財研究所で、高妻洋成氏、脇谷草一郎氏と石障石材の破片サンプリングの選別と、土壌サンプリング手順について協議

9月10日：石崎武志委員現地視察

9月29日：平成22年度第1回作業部会開催

9月30日：田中哲雄委員現地視察

10月 8日：文化庁（内田調査官）現地視察。

資料 2

- 1 0 月 2 6 日：奈良文化財研究所で、高妻洋成氏、三村衛氏（京都大学防災研究所）と石障の保存措置について打ち合わせをおこなう。
- 1 1 月 1 日：発掘調査開始
- 1 1 月 1 6 日：文化庁（佐藤主任調査官）現地視察。
- 1 1 月 2 2 日：平成 2 2 年度第 2 回史跡造山古墳第五古墳保存整備委員会開催
- 1 1 月 2 6 日：文化庁（林調査官）現地視察
- 1 2 月 1 5 日：平成 2 2 年度第 2 回作業部会開催
- 平成 2 3 年 1 月 2 1 日：京都大学防災研究所千木良雅弘教授現地調査
- 1 月 2 8 日：石崎武志委員現地視察
- 2 月 8 日：平成 2 2 年度第 2 回作業部会開催
- 2 月 2 8 日：文化庁で千足古墳の保護・保存について協議
- 3 月 1 1 日：平成 2 2 年度第 3 回史跡造山古墳第五古墳保存整備委員会開催
石障を石室外へ取り出す方針となる。
- 3 月 2 9 日：奈良文化財研究所で、高妻洋成氏と石障の保存措置について打ち合わせをおこなう
- 4 月 1 4 日：平成 2 3 年度第 1 回作業部会開催
- 5 月 2 5 日：奈良文化財研究所で、高妻洋成氏と石障の保存措置について打ち合わせをおこなう
- 5 月 3 1 日：平成 2 3 年度第 2 回作業部会開催
- 6 月 3 日：文化庁で千足古墳の保護・保存について協議
- 6 月 1 7 日：平成 2 3 年度第 1 回史跡造山古墳第五古墳保存整備委員会開催
- 7 月 2 1 日
- 2 2 日：文化庁（原田主任調査官）現地視察
- 7 月 2 5 日：文化庁で千足古墳の保護・保存について協議
- 8 月 8 日：第 3 専門調査会委員（佐藤信委員、稲田孝司委員）現地視察
- 8 月 1 8 日：第 3 専門調査会委員（広瀬和雄委員、上原真人委員、栄原永遠男委員、稲田孝司委員）現地視察
- 8 月 2 2 日：奈良文化財研究所で、高妻洋成氏と石障の保存措置について打ち合わせをおこなう
- 9 月 2 日：第 3 専門調査会委員（佐藤信委員、稲田孝司委員）現地視察
- 1 0 月 8 日：平成 2 3 年度第 3 回作業部会開催

10月21日：平成23年度第2回史跡造山古墳第五古墳保存整備委員会開催

11月4・8

- ・9日：奈良文化財研究所企画調整部写真室の井上直夫、栗山雅夫両氏が、千足古墳石障の写真撮影をおこなう。

11月18日：文化庁から現状変更の許可がおりる。

11月22

23・24日：石障表面にレーヨン紙を用いてフェーシングをおこなう。

作業は装こう師連盟がおこなう。

各日に文化庁増記調査官、宇田川調査官、建石調査官立会。

11月24日：石室内部の保護フレーム及び石障搬出用の櫓設置着手

11月25～

12月9日：・石室内部の保護フレーム、石障内部の保護枠設置

- ・石障搬出用櫓設置

- ・天井石2枚を移動、開口部付近の天井石を接着

- ・石障脇の間詰め石除去（上端で3cm、下端で0.5cm除去）

12月6日は、文化庁三宅調査官、建石調査官、9日は文化庁三宅調査官、宇田川調査官が立会。

12月10日：石障を石障ベットに入れ、石室外へ吊り上げるまでの作業をおこなう。午前9時に作業開始、午後3時30分に終了。

文化庁三宅調査官、宇田川調査官、和田調査官が立会。

12月11日：石障を石室から吊り上げ、櫓を用いてエアサス車に搬入。午前9時に作業開始、午前11時に作業終了。

石障取り出し後の記録作製をおこなう。

12月12日：午前0時にエアサス車が現地を出発、午前2時30分に埋蔵文化財センターに到着。午前8時30分から鉄器処理室へ搬入。

石障の代石を設置。

文化庁三宅調査官、建石調査官が立会。

12月13日：天井石を設置し、石室保護フレーム背後の発砲スチロールを撤去。

文化庁三宅調査官、建石調査官が立会。

12月14～20日：盗掘墳埋め戻し、櫓撤去。

平成24年1月12日

13日：フェーシング取り外し作業

文化庁美術学芸課長栗原祐司、建石調査官が立会

1月17日：石障を報道に公開

2月14日：平成23年度第3回史跡造山古墳第五古墳保存整備委員会開催



フェーシング作業



櫓設置作業の開始



櫓完成状況



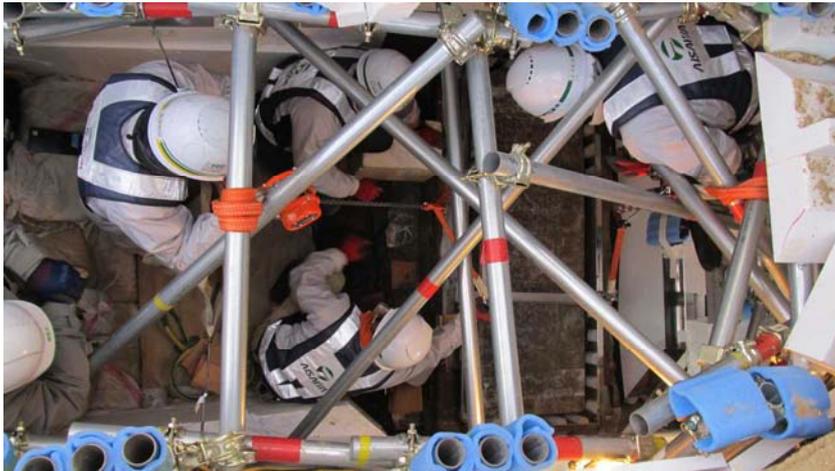
保護フレーム設置状況



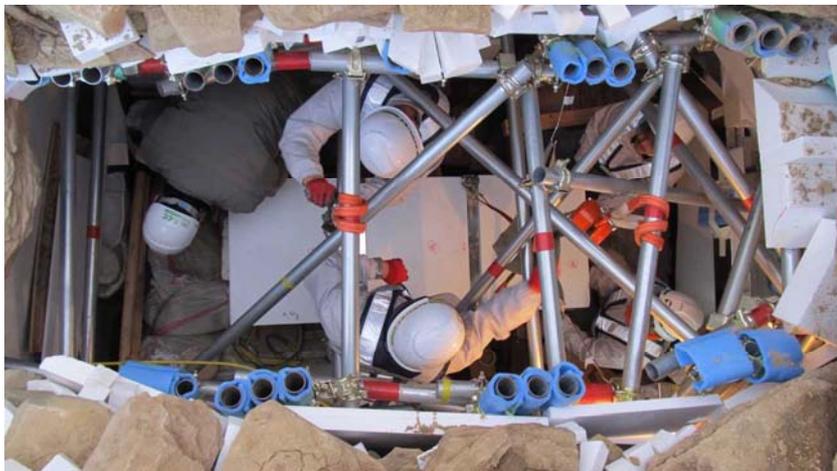
天井石移動作業



石障間詰石（ ）取り外し作業



石障ベットへの搬入作業



石障ベット回転作業



石障取り外し後の状況



石障 部分赤色顔料塗布状況



石障 部分赤色顔料塗布状況



石障ベット石室外へ吊り上げ作業



石障ベット檣平行移動



石障ベットをトラックへ搬入状況



埋蔵文化財センターへ石障搬入作業



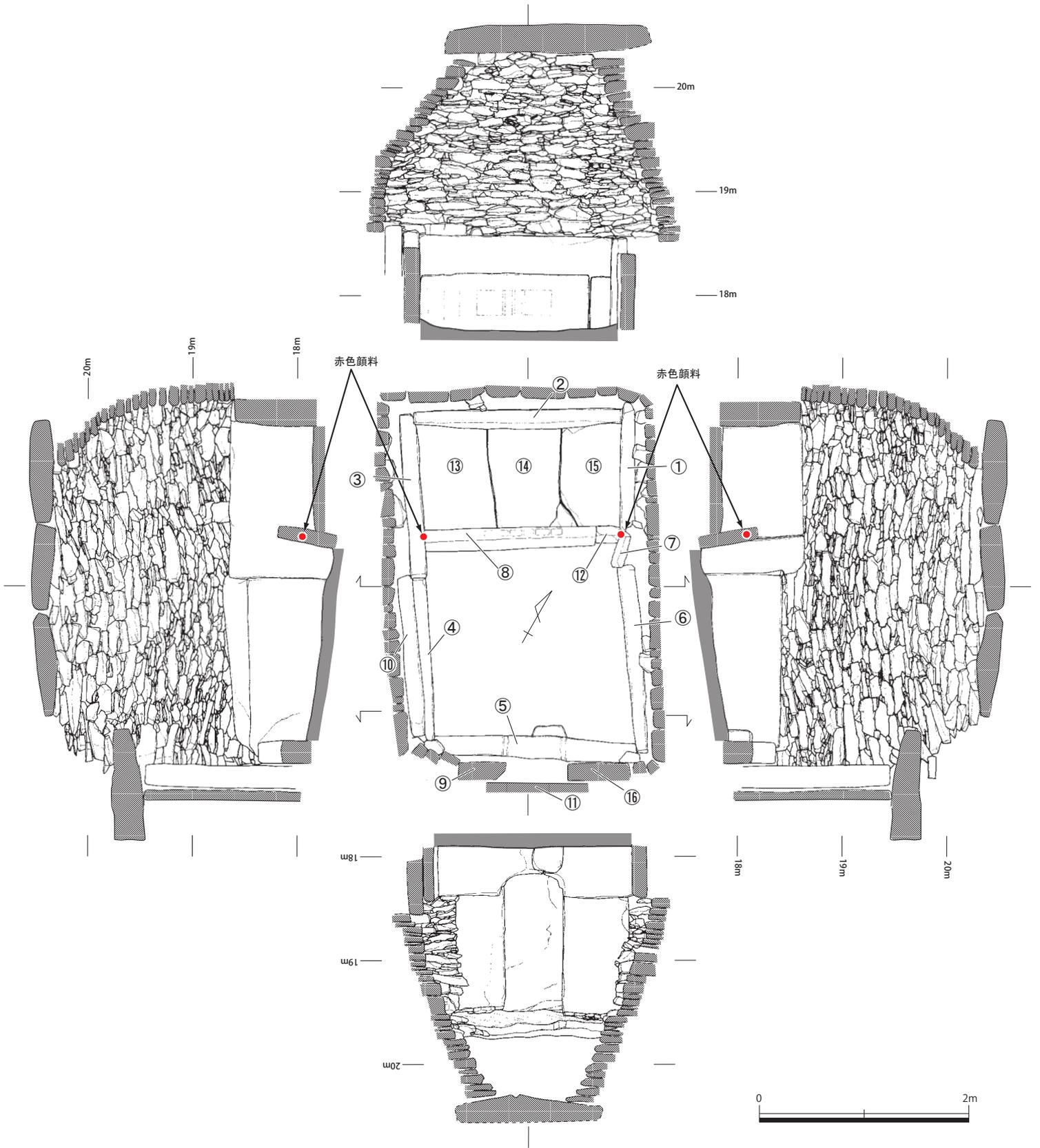
石障代石設置状況



天井石設置作業



フェーシングを外す作業



赤色顔料塗布位置



石障正面写真（奈良文化財研究所 井上直夫氏撮影）



昭和 62 (1987) 年 5 月 10 日撮影

地元の方提供